

創刊の辞

関西大学堺キャンパスに人間健康学部が2010年4月に創設されてから8年が経過した。学部の完成の後、2014年4月には大学院人間健康研究科が創設され、2016年4月には博士課程後期課程も開設された。この間に、修士（博士課程前期）課程からは35名の修了生が誕生し、博士課程後期課程には12名の院生が在籍している（2018年3月末現在）。

人間健康研究科のこうした発展に合わせて、この度、『人間健康研究科論集』を創刊することとした。『人間健康研究科論集』は人間健康研究科に所属する院生が、その研究成果を発表することを主たる目的とした学術誌である。そのため、本誌の掲載論文等は原則として人間健康研究科の院生が筆頭著者として投稿したものに限っている。本誌の刊行を通じて、本研究科における研究活動を促進すること、あわせて学術研究の発展に寄与することを目指している。

学術雑誌としての水準を保つために、研究科教員による編集委員会を組織し、各投稿原稿に対して複数名の査読者を委嘱して審査を行う体制を構築している。査読者は本研究科の教員以外にも委嘱する。本誌に掲載された論文等は、関西大学の学術情報システムにおいても一般に公開する予定である。なお、『人間健康学研究』も教員等の研究成果を広表していくために継続するので、2つの学術誌を、人間健康学部・研究科の研究・教育活動の成果を発信するための媒体として活用していきたいと考えている。

ところで、人間健康学部では人間健康学を、「人間の誕生から高齢までのライフステージを対象として、『こころ』と『からだ』と『くらし』を総合的にとらえる視点から健康概念をとらえ、人間の幸福を実現するための健康に関わる諸問題の解決手法を探究する応用科学である」と、定義している。こうした人間健康学の概念を基礎に、大学院人間健康研究科は、人間らしく健康で豊かに生活するための諸条件や諸問題を幅広く探究することを教育研究上の目的としている。人間の幸福（well-being）およびその条件である健康（health）は、人を取り巻く生活環境から大きく影響を受けている。生活環境は、人間の生き方や生活様式に関わり、人間社会の基盤となる価値や倫理、またさまざまな制度や文化と深く結びついている。

こうした視野に立つとき、人間健康学はすぐれて学際的な分野であることに気付かされる。人間健康学が人々の幸福と健康、それを実現する社会の建設を目指していることに鑑みると、それにアプローチする人々が多彩な学際的視野を持ち合わせる必要があることも当然である。このため人間健康学部と人間健康研究科を構成する教員の背景も、体育学、社会学、文化人類学、医学、社会福祉学というように多彩である。

本創刊号に掲載する論文も、社会福祉に関わるもの2編とスポーツに関するもの2編から構成され、多彩なものとなっている。院生諸君には、今後、本誌の内容を充実させていくため、積極的な論文等の投稿を期待している。本誌は、院生と教員とが共同で作っていくものであり、本誌の創刊を契機に、人間健康学が目指すものを広い視野から探求できるよう、院生および教員間の学問上の交流をも深めていきたい。

2018年3月

黒田研二（関西大学大学院人間健康研究科 教授）